

京都大学教育研究振興財団助成事業  
成 果 報 告 書

平成29年9月27日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団  
会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局・研究科 理学研究科 生物科学専攻

職 名・学 年 博士後期課程1年

氏 名 伊 藤 僚 祐

助成の種類	平成29年度 ・ 国際研究集会発表助成		
研究集会名	ヨーロッパ進化学会 (The 2017 Congress of the European Society for Evolutionary Biology)		
発表形式	<input type="checkbox"/> 招待 ・ <input type="checkbox"/> 口頭 ・ <input checked="" type="checkbox"/> ポスター ・ <input type="checkbox"/> その他( )		
発表題目	Molecular evolutionary patterns of the rhodopsin gene in the goby <i>Gymnogobius</i>		
開催場所	オランダ グローニンゲン		
渡航期間	平成29年8月18日 ~ 平成29年8月27日		
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有( )		
会計報告	交付を受けた助成金額	300,000円	
	使用した助成金額	300,000円	
	返納すべき助成金額	0円	
	助成金の使途内訳	学会参加費	26,200円
		交通費	173,400円
		宿泊費	109,000円
計		308,600円	
上記に助成金300,000円を充当			
当財団の助成について	ヨーロッパ進化学会への参加はかねてからの望みでしたが、学会の開催地がヨーロッパであること、交通費や宿泊費が高い時期に開催されることなどからこれまでは参加を見合わせてきました。貴財団のご支援により今回学会参加することができました。多大な支援に深く感謝申し上げます。		

## 成果の概要／伊藤僚祐

- ・大会名

The 2017 Congress of the European Society for Evolutionary Biology, ESEB 2017  
ヨーロッパ進化学会 2017 年大会

- ・開催期間

平成 29 年 8 月 20 日～平成 29 年 8 月 25 日

- ・開催場所

オランダ フローニンゲン

- ・報告者

理学研究科 生物科学専攻 伊藤僚祐

- ・学会の概要

報告者は 2017 年 8 月 20 日から 8 月 25 日にかけてオランダ フローニンゲンにて行われるヨーロッパ進化学会 2017 年大会 (The 2017 Congress of the European Society for Evolutionary Biology, ESEB 2017) に参加した。ESEB は進化生物学分野における世界最大級の学会であり口頭発表、ポスター発表合わせて 1000 題以上の研究発表がなされた。研究発表の多くはポスドクおよび博士後期課程学生によるもので、報告者は質の高い研究発表を数多く聴講することができた。ヨーロッパ進化学会における研究発表は分野によって 35 種類のシンポジウムに分けられ、適応進化、ゲノミクス研究から感染症の進化学まで多様な発表を調光することができた。特にシンポジウム”Phylogenetics in the genomic era”では自身が使っている解析ソフトウェアのアルゴリズムについて詳細な情報を得、シンポジウム”Genomics of adaptation”では現在行われている適応進化研究について最新の知見を得ることができると有用な勉強の機会を得られた。Stephen Stearns 教授による基調講演では氏のこれまでの進化生態学研究についてと ESEB の創立者としての彼の進化生物学分野への貢献についてうかがい知ることができ、大変有意義な公演であった。

- ・報告者の発表および質疑について

報告者はシンポジウム Evolutionary Implications of Hybridization に参加し、24 日の 17:30 から 19:30 にかけてポスター発表を行った。報告者はウキゴリ属魚類 14 種において 3~4 回独立にロドプシン進化が生じ、また独立に生じたロドプシン進化はアミノ酸配列の共通性が高い分子収斂であったこと。ロドプシン進化した種のうち 2 種に着目し機能遺伝子網羅的な解析を行った結果、分子収斂に加え浸透交雑によるロドプシンの獲得が起きた可能性について発表した。ポスターセッションでは 11 人に対しポスターの説明をし、活発な質疑が行われ、有益な助言を得ることができた。質疑は、対象生物であるウキゴリ属魚類の生息環境から、解析手法、研究の最終的な着地点についてなど研究について包括的な質問など、多岐にわたった。特に解析手法の質疑において、質問者から最新の解析手法について有益な情報を得ることができた。

またポスター発表を行った 24 日にはシンポジウム参加者だけの非公式な昼食会が開催されたため、自分と研究分野の同じ研究者たちと研究についての話をする機会が得られた。特にカジカの浸透交雑の研究を行っている Janzen 氏と行った、淡水魚や日本産カジカについての議論において新たな研究について新たな研究課題についての着想を得るなど非常に有意義な時間を過ごすことができた。

最後に、公益財団法人京都大学教育研究推進財団による助成を頂き、今回のような貴重な経験を積む機会を得ることができました。The 2017 Congress of the European Society for Evolutionary Biology における参加および発表経験において、多くの有益な議論や情報を得ることができました。また国外の研究者との交流を深め、最先端の研究の治験を深めることができました。このような貴重な機会を下さった貴財団に心から感謝申し上げますとともに、貴財団の更なる発展を祈念致します。